

藤原直哉と新しい縁を始めませんか？

松本本陣藤原学校

激動を突破するリーダーシップを学ぶ

～2時間の無料コンサルティングと2時間の社内外無料講演会つき～



松本藩主が利用した風格漂う旧小澤家本陣内で五感を総動員して学びます

【日程】2021年6月12日(土)～13日(日)

【場所】長野県松本市保福寺町

【企画】株式会社あえるば

【旅行手配】株式会社明神館 旅行事業部



このたびは(株)あえるばの「松本本陣藤原学校ー激動を突破するリーダーシップを学ぶー」にご興味をお持ちいただきましてありがとうございます。天運巡り、全世界はあらゆる人知の政治・経済・生活のシステムが限界を超え、しかし未だ何をなすべきか知らざるうちに、混乱だけが広がっています。

古来、世の中はもっとたくましく、もっと大きな視野と行動をもって運営されてきました。いま新しい時代を創るために最初に必要なことは、本来のリーダーシップを特に世の中の責任ある立場の人たちがよく知り、よく身につけて、それを実践することです。

日本には悠久の歴史があります。これから先に何が必要なのかについては、すべて歴史のなかに答えがあると言ってもまったく過言ではありません。今回は江戸時代の本陣を大正時代に再建した、松本市の旧小澤家の本陣をお借りして、温故知新で未来のリーダーの姿を学びます。ぜひひとつでも多く皆さんがこの研修で、未来創りのリーダーシップを学んでいただければと思います。

さらにこの研修には、研修後、参加者ご自身あるいは参加者の組織の方々との、藤原直哉による2時間の無料コンサルティング、および2時間の社内外無料講演会が含まれています(研修から1年以内。交通費・宿泊費など実費は別。ZOOMやYouTubeを使ったオンラインでも可。講演会は時局でもリーダーシップでも可)。

トップが研修を受けても研修の内容をいかに自分の組織に落とし込み、自分の組織内に浸透させ、また社員や取引先、顧客と共有していくかはとても大切であると同時に、あまり簡単ではありません。その点で研修の効果を最大限に上げるためにも、研修後のフォローアップと講演会を組み込んでいます。

日本はこれから急激に若い世代へのリーダーシップの交代が進行します。新しい世代のリーダーがこの激動を突破していくためにも、継続的な勉強とヨコのネットワークは極めて重要であり、これを機会に藤原直哉と新しい縁を結んでいただいて、この先のご発展の一助にいただければと思います。

2021年4月吉日

株式会社あえるば 会長

経済アナリスト 藤原直哉

■研修概要

日程	2021年6月12日(土)～13日(日)の2日間
場所	Satoyama Villa HONJIN https://shigahonjin.jp/ 〒399-7412 長野県松本市保福寺町246 TEL.0463-61-1111
講師	藤原直哉
定員	6～12名様 ※最小催行人員6名
申込締切日	2021年5月31日 ※あるいは定員になり次第(先着順)
参加費	2日間 120,000円(消費税、宿泊費、朝1・昼2・夕1回の食事、研修資料代、藤原直哉によるコンサルティング・講演(研修終了日から1年間・各2時間)含む) ※お申しいただきましたら、開催決定後、別途詳細資料と請求書をお送りいたします。

■研修内容

<本陣を研修場所に>



研修場所は、江戸時代の本陣をそのままに大正時代に立て直した古民家です。江戸時代のトップリーダーといえば大名です。かつて松本藩の藩主が参勤交代で利用した松本市保福寺の本陣が火災で焼失。それを大正時代にそのまま建て直したこの古民家は、家の作りも雰囲気も非常に引き締まった大名宿そのもので、古来、トップリーダーが学んできた凜とした雰囲気が十分に味わえます。

特にリーダーシップ研修は研修場所の選定が非常に重要で、都会の会議室では到底達成できない有益な効果が、研修にふさわしい環境から得られます。本陣の入り口には殿様用、家来用、使用人用の3つがあって、大きさや格式が全然違います。今回の研修では最初に殿様用の入り口からお入りいただきます。

<本陣を運営する扉グループ>

この本陣を民泊施設として運営しているのは長野県美ヶ原で明神館という超高級温泉旅館を運営している扉グループです。明神館は予約の取れない宿として有名ですが、やはりトップリーダー級の方々をお迎えするスタッフのおもてなしや、研修中の4回のお食事のクオリティーはとても重要です。今回は扉グループのシェフがみなさんのお食事をご用意いたします。



1日目 6月12日(土) 「激動を突破するリーダーシップ」

では、1日目の研修です、1日目は激動を突破するリーダーシップについて学びます。激動を突破するとは激動の先の安定した世の中に向けて自分や組織をいかに軟着陸させるかという意味で、荒れて視界も悪い海を目的地に向けて安全に航海する方法と言えましょうか。

12:20 本陣集合

12:30 参加者自己紹介・昼食

13:30 講義「激動を突破するリーダーシップ」

・神道にみる礼儀と敬語 ・心にしみる話 ・太平記 ・南淵書

※途中休憩時にお抹茶の接待(15:00~15:30)

17:20 講義終了

17:30 入浴・休憩(希望者は近隣温泉へ。車で約15分)

19:00 夕食(地元の食材を使ったコース料理)

懇親会(囲炉裏や焚火を囲んで語り合う時間)



<祝詞と般若心経>

トップリーダーの最大の使命は現界と天界を真に釣り合わせる、まつり合わせ、政事です。一般に組織

のリーダーシップでは、まず理念を設定して、それを現実に展開するのがリーダーの仕事だと言われます。しかしトップリーダーとなると理念の設定のところでも現実の展開のところでも自分たちの都合だけで決めるわけにはいかず、目に見えない世界としっかりまつり合わせていかなければなりません。そうしないと時流に全く外れたり、組織がいつまで経っても安定しなかったり、トップリーダーが目先の仕事に忙殺されるばかりで、結局組織もトップリーダーも疲弊しきってしまいます。

古来、日本では魂の半分は現界に、半分は天界にあるものとして、両者一体の魂こそ自分そのものであるとして人は育てられてきました。日常生活において朝起きたら丁寧に挨拶をして、丁寧に掃除をして、仏壇でお経を唱え、神棚で祝詞を唱え、神仏・祖先を篤く敬う。それはトップリーダーとして欠かすことのできない素養であり、日常生活であるとして伝えられてきました。日本古来の偉人伝を読めば、誰一人としてそれを欠いた人はいないと思います。

さらに祝詞に使われている言葉は最高の敬語です。人が神に対して申し上げる言葉で、日常のなかであまり大事にされなくなった敬語を実際に話してみて、それがどのような感覚として自分のなかにフィードバックされるかも体験していただきたいと思います。

今でも実際に祝詞やお経をあげていると、不思議と自分自身の精神世界が安定し、生活も仕事も落ち着いてこなせるようになります。その深い原理はともかく、日常の実践として人が現界と天界をつなぐ架け橋として受け継いできた祝詞と般若心経を実際に唱えてみて、雰囲気を感じていただきます。

<心にしみる話>

トップリーダーは自分の心だけでなく、人々の心も安定するように努めなければなりません。特に人は若いうちは何が正しくて何がまちがっているか、どうしたら成功してどうしたら失敗するかよくわかっていません。そういう人たちにこそまず礼を教え、礼を守れば最低限、人は自分を受け入れてくれて、人と親しく仕事や生活ができることを教えます。さらに礼を学ぶ際には心にしみる話もよく聞くべきです。すなわち人は所作が礼にかなって、次に心が穏やかに豊かになれば、かなり安定的に人々と交流できます。戦後日本に生まれた倫理法人会では、『職場の教養』という小冊子を毎月発行していて、そこには人が読んでも聞いても感動する短いお話がたくさん載っています。これは朝礼で読むべきものですが、朝礼もまさに朝の礼であり、所作を整え、心の光と温かさを高めると、人は朝から元気に仕事ができるでしょう。最近は朝礼と言えば事務連絡になったり、そもそも朝礼をしないところも増えましたが、この研修では『職場の教養』に載っているお話をいくつか読んで、それが自分の心にどのようにしみいつていくかを体験していただければと思います。

<太平記>

中世の軍記物語『太平記』は、古来、日本の武士だけでなく一般庶民も含めて多くの人たちが読み継いできた古典です。鎌倉時代末期から建武の新政をはさんで室町幕府の南北朝合一までを舞台にした本書は、どこまでも続く戦乱と世の中の混乱を書き綴りながらも題名が太平記となっていて、要するにどのようなすれば国の乱れがなくなり、どのようにすれば太平の世が来るかを書いた本だと言ってよいでしょう。特に『太平記』の序文にはトップリーダーとして絶対に外せない道理が書かれていて、それは今まさに我々が突入しようとしている乱世をどう生きるか、乱世の先にどのように安定と繁栄の時代を創るかの一番大事なことが記されています。この研修では太平記の序文といくつかの大変示唆深い章を

読んで、トップリーダーとしての考え方、行動の仕方、さらに歴史の流れのなかで自分と自分の組織の役割をどう見出し、どう役割を果たすかを学びます。

<南淵書>

南淵書（なんえんしょ）とは、明治から昭和を生きた中国制度学の専門家で九州出身の権藤成卿（ごんどうせいきょう）が編纂した歴史書です。古代、大化の改新の際に中大兄皇子が中国の唐から帰ってきた留学僧、南淵の請安（じょうあん）に太古の昔の日本の歴史や、一国の統治者としての考え方、行動の仕方を尋ねた本で、この問答集がまさに大化の改新から建武の新政、明治維新、そして昭和、平成、令和と今日まで続く日本の保守政治の深い底流になっています。そこには日本の古来からの習俗や基本的な考え方が記されていて、日本は太古の昔から何か未来が危うくなったらここに述べられた原点に戻ることが大切だとされてきました。実際にその後の日本の歴史は原点回帰とその先の新しい革新、さらにまた原点回帰というようにらせんを上るように動いていて、その運動は今でも全く止まることがありません。さらに興味深いことに南淵書は大正時代に当時の皇太子、のちの昭和天皇のもとに一条公からぜひお読みくださいと献上された経緯があります。実際に昭和時代の政治の流れを振り返ると、南淵書が治世の重要な教科書になっていたことはまちがいありません。果たして日本の原点はどこにあるのか、トップリーダーは何を大事にしていけばよいのか、ぜひこの本から学んでいただきたいと思えます。

2日目 6月13日(日)「突き抜けたリーダーシップ」

2日目の研修です。2日目は突き抜けたリーダーシップというタイトルです。上述のように日本では昔から魂の半分は現界に、半分は天界にあるものとして人を育ててきました。突き抜けたというのはリーダーシップが現界だけに収まらず、天界にも影響を及ぼしていくという意味です。

- 07:00 朝食
- 07:30 散策・座禅
- 08:30 講義「突き抜けたリーダーシップ」
 - ・葉隠 ・四大綱領と四大主義
- ※途中休憩時にお抹茶の接待（10:00～10:30）
- 12:00 昼食
- 13:00 事例研究
- 14:00 質疑・応答・ディスカッション
- 15:00 終了



<座禅>

朝は朝食後、近くの曹洞宗保福寺に、ご住職のご厚意で短時間の座禅に行きます。朝の清々しい本堂で座禅をすると身も心も落ち着きます。古来日本では、散らばる精神を躰下丹田（せいかたんでん）に収めるといのは何事をなすにも最初にすべきことだと言われ続けています。

ぜひその座禅を体験していただければと思います。

<葉隠>

佐賀藩に伝わる「葉隠」は、武士の精神の持ち方と行動の手本を書いたものとして、古来、人々に読み継がれています。武士道とは死ぬことと見つけたりという一説は大変有名ですが、決して生死のことばかりを言っているわけではなく、今と同じような官僚組織のなかでの考え方や行動、大事に当たっての身の処し方、トップリーダーの在り方など、全く常識が違う時代のお話とは思えないぐらい、今の時代を生きる我々にも大変役に立つな示唆をいくつも与えてくれます。葉隠はかなり長い本ですが、特に印象的な部分を読んで今の時代のトップリーダーに即して考えていきたいと思っています。

<四大綱領と四大主義>

これは出口王仁三郎が人生の指針として示しているものの考え方や行動の基本です。魂の半分が現界に、半分が天界にあるものとする、人は半分が有限の世界、半分が無限の世界に生きているということになります。現界、すなわち有限の世界だけであれば、現界の法則に従って物事を組み立てることが可能です。たとえば実際に現界に立つ家の設計図は綿密な論理と計算によって作成され、現実の物理学に即して立派に立ち上がります。しかし天界、すなわち無限の世界となるとそこは想念の世界であり、1+1の答えはいかようにもなり、初めも終わりも時間も際限もありませんから、現界の法則は通用せず、何か別の規範というか、方向性を持ってこななければ対処できません。この無限の世界に向けて人はどのように考えて行動すれば天界に通じることができ、どうすれば現界と天界がまつりあうのか、それは極めて重要なことです。特にトップリーダーの日常は道なきところに道を切り拓き、振り返れば道ができているということが珍しくありません。そのような時こそどうすればよいのか、ひとつの考え方が必要になります。出口王仁三郎が大変現実的な考え方を提示していますので、ここではそれを学びます。

<事例研究>

2日目の午後はいくつかの事例研究を行います。歴史に「もしも」はないと言われますが、実際には「もしも」を考えていくことが最も現実的なトップリーダーとしての応用問題です。どれだけ高く俯瞰して全体を眺め、どれだけしっかりまつりあい、どれだけしっかり細部に気を配ることができるか。リーダーにとっての唯一の実践的教科書ともいえるのが歴史です。歴史のなかに見えてくるトップリーダーの姿を学んで、実践的なトップリーダー像をイメージしていただけたらと思います。

<質疑・応答・ディスカッション>

最後は参加者のみなさんとの交流の時間です。学びについての質疑・応答を受けると同時に、何を学んだのか、これからどうすればよいのかをみなさんでざつぐばらんに話し合い、新しい光と元気を得ていただければと思います。

以上、内容はかなり盛りだくさんですが、本陣の凜とした雰囲気の中でこれからのトップリーダーの在り方をしっかり学び、明日からの仕事と生活に生かしていただければと思います。そして各組織に帰られた後には、組織全体の活性化に向けて、付属のコンサルティング・講演をどうぞご活用ください。

■ 研修要領

ご宿泊について	※相部屋となり、部屋の種類は選べません。本陣敷地内はすべて禁煙です。 相部屋を希望されない方は、松本駅周辺のビジネスホテルをご利用いただくこともできます。ただし宿泊料として参加費以外に別途 8,000 円必要です。												
旅行保険	限度額お一人様死亡後遺障害 1,500 万円、【入院】7 日未満総額 2 万円、7～90 日未満総額 5 万円、90～180 日未満総額 10 万円、【通院】3～7 日未満総額 1 万円、7～90 日未満総額 2.5 万円												
旅行について	<ul style="list-style-type: none"> ・この旅行は、株式会社明神館 旅行事業部が旅行を実施し、参加者は当社と募集型旅行契約を締結します。その内容は出発前にお渡しする「ご案内」（最終旅程表）によります。 ・参加申込書に基づき、旅行開始日の 10 日前後を目安に、ご案内・請求書等を作成してお送りします。請求書到着後 5 日以内に指定の銀行口座へ全額お振込みください。振込手数料はお客様負担にてお願いいたします。 ・最少催行人員に満たない場合は、本旅行を中止する場合があります。また、当日の気象や社会情勢等の諸状況により中止となる場合もありますので予めご了承ください。 												
キャンセル規定	<p>ご都合によりお申込の取り消しをされる場合は、以下の料金を頂戴いたします。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取消日</th> <th>キャンセル料（参加費の）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10～8 日前（6月2日～4日）</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>7～2 日前（6月5日～10日）</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>出発日の前日（6月11日）</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>出発日の当日（6月12日）</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>旅行開始後または無連絡による不参加</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※お申込内容の変更または取り消しをされる場合は、必ず FAX あるいは郵送にてご連絡ください。電話でのご連絡はご遠慮ください。</p>	取消日	キャンセル料（参加費の）	10～8 日前（6月2日～4日）	20%	7～2 日前（6月5日～10日）	30%	出発日の前日（6月11日）	40%	出発日の当日（6月12日）	50%	旅行開始後または無連絡による不参加	100%
取消日	キャンセル料（参加費の）												
10～8 日前（6月2日～4日）	20%												
7～2 日前（6月5日～10日）	30%												
出発日の前日（6月11日）	40%												
出発日の当日（6月12日）	50%												
旅行開始後または無連絡による不参加	100%												
研修内容についてのお問い合わせ	<p>株式会社あえるば 担当：長谷川孝 hasegawa@aeruba.co.jp TEL:0465-44-4750 FAX: 050-3606-5111 〒250-0011 神奈川県小田原市栄町 2-13-12 ASUKA ビル 2F</p>												
旅行手配・申込先	<p>株式会社明神館 旅行事業部 長野県知事登録業 第 2-625 号 TEL: 0263-88-3266 FAX:0263-88-5477 受付時間：10 時～18 時 〒390-0222 長野県松本市入山辺 8967</p>												

■ 交通アクセス例（電車の場合松本駅から送迎車で約 30 分）

名古屋方面から	<p>車：中央道安曇野 IC 経由で名古屋から約 3 時間 電車：名古屋 09:00 発 松本 11:04 着 ワイドビューしなの 5 号</p>
東京方面から	<p>車：中央道安曇野 IC 経由で新宿から約 3 時間 電車：新宿 09:00 発 松本 11:39 着 あずさ 9 号</p>

申 込 書

第1回 松本本陣藤原学校

2021年6月12日～13日開催

ご記入日： 年 月 日

フリガナ		性別	男 ・ 女
お名前		生年 月日	明・大・昭・平（西暦19 年） 年 月 日（満 歳）
あえるばお客様番号（お分かりになる場合）			

■ご連絡先について

<input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> お勤め先 ※どちらかにチェックをおつけください。			
お勤め先名	※ご連絡先が「お勤め先」の場合ご記入ください		
	部署：	役職：	
住 所	〒 _____		
TEL	() -	FAX	() -
携帯電話	緊急時 連絡可・不可		
電子メール	@		
請求書宛名	※未記入の場合、個人名で発行させていただきます		
交通手段	自家用車 ・ 公共交通機関		
※別途宿泊先手配、食事リクエスト（アレルギーや菜食など）、その他特別に手配が必要なことがございましたらご記入ください。			

申込先：株式会社明神館 旅行事業部

↑ FAX送信先：0263-88-5477 ↑